

平成 24 年 6 月 18 日

大学満足度調査結果について

教育支援センター長

大学満足度調査は、平成 19 年度以降全学生を対象に毎年実施しています。その結果は、教育改革やカリキュラム改革等に有効に利用されてきました。

しかし、調査結果の分析及び対策は学部毎に任されており、大学全体としての分析や評価が行われてきませんでした。この問題を解決するために、平成 23 年 4 月に発足した教育支援センターが中心となって全学的視点に立った分析や評価を行い、学部に対して報告や提言を行うことになりました。

従前、大学満足度調査結果は、調査年毎、学部毎、学年毎、設問項目毎に回答を集計し、相対度数による横棒グラフで表示してきました。

この方法では、経年変化や学部間の差等が明確でなく、全学的視点に立った分析や評価に適していないことから、各回答をポイントに換算し平均点をとる方法、すなわち、大学満足度調査版 GPA で表示することにしました。

各設問に対して用意されている回答は、「強くそう思う」、「そう思う」、「それほど思わない」、「まったく思わない」の 4 段階であり、調査開始当初にあった中間的な評価は廃止され、肯定的か否定的かに明確に分けるようになっております。この趣旨を活かして

強くそう思う = + 3

そう思う = + 1

それほど思わない = - 1

まったく思わない = - 3

とポイントをつけることとしました。したがって、評価点は - 3 ~ + 3 の間の点数となり、次のような意味を持つこととなります。

+ 3	全学生が完全肯定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。
+ 1.2	+ 3 が 20%、+ 1 が 70%、- 1 が 10%、- 3 が 0% の場合が相当し、極めて肯定的意見が多いことを意味する。
+ 0.6	+ 3 が 20%、+ 1 が 50%、- 1 が 20%、- 3 が 10% の場合が相当し、かなり肯定的意見が多いことを意味する。
0	肯定的意見と否定的意見が拮抗することを意味する。
- 0.6	+ 0.6 の逆であり、かなり否定的意見が多いことを意味する。
- 1.2	+ 1.2 の逆であり、極めて否定的意見が多いことを意味する。
- 3	全学生が完全否定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。

評価点に対する総合評価

- (1) 評価点が+1.2を超える（極めて満足度の高い）項目については、現時点では特に問題はないこととなりますが、今後も高い評価を受け続けるようにすべきと思われます。
- (2) 評価点が+0.6を超える（かなり満足度の高い）項目については、緊急度は低いものの、さらに満足度を高めるべく努めるべきであろうと考えられます。
- (3) 評価点が0～0.6である（不満足というほどではないが満足度が低い）項目については、満足度を高める努力が必要と考えられます。
- (4) 評価点がマイナスである項目は、早急な対策が必要と考えられます。
- (5) 評価点が-0.6以下である項目は、特に緊急に対応すべきであると考えられます。

上述の判断を踏まえて、次のように評価点を総合評価することにしました。

評価点	意味	総合評価
+1.2を超える	極めて満足度が高い	S
+0.6を超え+1.2以下	かなり満足度が高い	A
0を超え+0.6以下	不満足というほどではないが満足度が低い	B
0以下で-0.6まで	満足している者よりも不満足な者の方が多い	C
-0.6以下	かなり満足度が低い	D